

令和7年
2025年

12月1日
月曜日

第11844号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込）
6か月 42,120円
（税込）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
https://www.shokuniku.co.jp/

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



全肉連が「お肉HACCP支援ツール」導入説明会を実施……P3

- ▶ 畜産部会開催、畜産物価格決定に向け議論開始—農水省……P2
- ▶ 農水省が農林水産関係補正予算公表、和牛肉需要拡大緊急事業対策に170億円措置……P2~3
- ▶ 全肉連が「お肉HACCP支援ツール」導入説明会を実施……P3
- ▶ 2年2カ月ぶりにわずかながらも前年上回る—10月分の食肉加工品生産量……P4
- ▶ アルゼンチン北部の生鮮牛肉輸入に関わるリスク評価を議論—牛豚疾病小委……P5
- ▶ [食肉流通統計・10月]と畜頭数は豚が1.5%増、成牛は3.1%減……P6
- ▶ [鶏肉輸入通関10月]計5万7322tで8.0%減……P6
- ▶ 京都府食肉業務用卸協同組合が総会、事業計画案など可決……P7
- ▶ 佐藤俊昭氏の通夜・告別式に多数の関係者が参列、故人をしのぶ……P7
- ▶ [JCA・10月]豚肉、鶏肉動き良いが牛肉、加工品鈍く1.3%増……P8
- ▶ 【東京食肉卸売市場】年末手当てで牛は堅調、豚は強含み……P8
- ▶ 【大阪市食肉卸売市場】和牛3~5等級強気に、豚12月中は高値を維持……P8
- ▶ [資料]食肉加工品生産数量調査報告書(2025年10月分)……P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]11月28日……P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]11月28日……P11

注目のヘッドライン

畜産部会開催、畜産物価格決定に向け議論開始—農水省

農水省は11月27日、令和7年度1回目となる食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開催。農水省からの畜産・酪農をめぐる情勢の説明を踏まえ、意見交換が行われた。…詳細はP2

農水省が補正予算公表、和牛肉需要拡大緊急事業対策に170億円 ……詳細はP2~3



多岐にわたる情報を網羅 食肉通信社

銘柄牛肉 ガイドブック



'25 380
ブランド
以上 B5判/258頁
定価2,500円 **新刊**

畜産部会開催、畜産物価格決定に向け議論開始—農水省

農水省は11月27日、令和7年度1回目となる食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開催。農水省からの畜産・酪農をめぐる情勢の説明を踏まえ、意見交換が行われた。部会長には、(株)農林中金総合研究所の小針美和主席研究員が選任された。

冒頭、長井俊彦畜産局長は「子牛価格は前期を上回って推移しているが、物価上昇に伴い牛肉の消費が伸び悩む中、引き続き需要拡大に向け、消費者ニーズに応じた生産、さらなる輸出拡大に取り組む必要があると考える。今後、持続的な畜産物の生産と安定した畜産経営を実現するため、国産飼料の生産や利用拡大、輸入飼料依存度の低減が求められている。本日は、令和8年度畜産物価格決定に向け、これらの背景となる畜産・酪農をめぐる情勢を説明した上で、忌憚のない意見をお願いしたい」と述べた。委員からの主な意見(肉用牛)は次の通り。

「コロナにより牛肉消費が低迷。それに伴い価格低減が続いている中、さまざまな対策を措置していただいた。一方、乳用種においては、経費の価格転嫁がむずかしく、牛マルキンなどを含めても所得が確保できてない状況だ(小椋茂敏委員/北海道農業協同組合中央会副会長理事)」「繁殖経営は、直近では子牛価格が上向く兆しをみせているが、これは子牛頭数の減少によるもので、飼料価格の高騰、離農をはじめ厳しい状況は続いている。生産基盤の維持に向け、肉用子牛生産者補給金制度の保障基準価格について、生産コストの高止まりなども踏まえ、再生産が確保できる価格に設定していただくとともに、酪肉支援資金な

ども含め十分な対策をお願いしたい(藤間則和委員/一般(社)全国農業協同組合中央会常務理事)」

「A5=最高級というイメージが定着している。生産者および消費者のためにも、そのイメージを払拭する必要があると考える(羽田香弥子委員/中小企業診断士・社会保険労務士)」「近年の枝肉重量やBMSにおいて、市場の多くがA5となっているが、この要因の一つとして業界関係団体の皆さまによる育種改良の成果が出てきた結果であると考え。その上で短期肥育においては、今の質を維持しつつ生産費を削減していく取り組みが重要である。畜産物生産の課題に対応するためにもさまざまなデータの収集態勢を構築していただきたい(上本吉伸委員/東北大学大学院農学研究科教授)」

これらの意見に対し、農水省は「畜産経営において、コストを上回る価格で売って、経営することが重要である。出口対策となる支援を行っていききたい」「畜産物価格について、生産費や物価動向を踏まえて適切に算定していく」「牛肉は非常にバラエティーに富んだ畜種だと思っている。ホルスタイン、交雑、和牛があり、部位も多様だ。消費者の多様なニーズに応じていくために、国としても後押ししていきたい」と回答した。

この他、会議では国産飼料の生産や利用拡大、アニマルウェルフェア、鳥インフルエンザなどの家畜疾病等に対する意見も上がった。

なお、今回は、令和8年度畜産物価格についての議論を行う予定だ。

農水省が農林水産関係補正予算公表 和牛肉需要拡大緊急事業対策に170億円措置

農水省は11月28日、令和7年度農林水産関係補正予算の概要を公表。7年度補正予算に総額9602億円(公共=4209億円、非公共=5312億円)を計上した。

和牛肉需要拡大緊急事業対策には170億円を措置。物価高騰に伴う消費者の生活防衛意識の高まりなどにより、和牛肉の需要が軟調に推移していること

から、緊急的かつ強力に和牛肉の需要を喚起し、需給状況を改善する必要があるとし、和牛肉の販売促進に対する取り組みを支援する。和牛肉の販売促進への支援としては、食肉事業者が実需者に対し和牛肉を販売する際、ロイン(ヒレ・リブロース・サーロイン)にキロ当たり1800円、ロイン以外(スネ・ネック、くず肉を除く)に600円、フルセット(枝肉から得られる全ての

部位)にA5で1頭15万円、A4で1頭9万円の奨励金を交付する。この他、和牛肉試食提供などによる消費拡大への支援を行う。

農林水産物・食品の輸出促進においては、457億6900万円の予算を計上。このうち、畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業に14億円、畜産物流通構造高度化・輸出拡大事業に166億5900万円を措置。畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業では、畜産農家、食肉処理施設、輸出事業者が連携して、生産から輸出まで一貫して輸出促進を図る体制(コンソーシアム)の育成、設立、コンソーシアムが実施する商談やプ

ロモーション、輸出先国の基準やニーズに対応するための取り組みなどを支援する。畜産物流通構造高度化・輸出拡大事業では、食肉処理施設などの再編等や輸出拡大に必要な施設の整備、基幹となる食肉処理施設および乳製品加工施設の合理化、高度化などを支援する。

畜産クラスターなどによる生産基盤の維持・強化では所要額591億円の予算を計上し、畜産の収益性、持続性、社会的価値を高めるために必要な施設整備や機械導入を支援する他、若い繁殖雌牛への更新や省力化に資するICT関連機械の導入を後押しする。

全肉連が「お肉 HACCP 支援ツール」導入説明会を実施

全国食肉事業協同組合連合会は11月28日、東京都港区のベイサイドホテルアジュール竹芝で令和7年度食肉流通HACCP推進事業の事業推進部会を開催した。部会では、食肉流通HACCPステップアップ事業の一環で、「お肉HACCP支援ツール」導入説明会を実施。以前から開発が進められてきた同デジタルツールは実用化への準備が整いつつあり、今回は来年から運用に向け、各道府県肉連に対する説明が行われた。

全肉連の木村元治専務(下写真)は冒頭、「HACCPのスマート化に向けたツール開発は令和5年に開始しており、今は3年目となっている。食肉業界では記録の仕組みを極力シンプルにする動きがあり、その中でスマート化に取り組むことになった。良いシステムが作られていると思うが、今後広めていくことが大事であり、皆さまには本日実際に触れていただき、普及にご尽力いただきたい」とした。続いて、農水省畜産局食肉鶏卵課の香川仁志課長補佐が「国民の皆さまが国産食肉に求めるものとしては、おいしさの他、安全・安心も重要であり、HACCPのスマート化が現場に普及していくことを期待している」とあいさつした。

説明会では、同ツールの開発に携わる(株)東広の制作部・門司野恵留マネージャー、(株)ゴーゴーデザインの村上潔社長が登場。開発に至った経緯については、「記録業務が負担になる」「紙では記録の振り返りがむずかしい」といった課題を解消するためと説明している。特長としては①完全無料かつ登録不要です



ぐに使用開始できる
②スマートフォン、タブレット、パソコンで簡単に記録できる③改善点の“見える化”によって記録の振り返りを促し、衛生管理の質を向上させる一と、主に三つが挙げられた。



さらに、一般衛生管理計画書、重要管理計画書、そして日々の記録に関して、基本的な入力やカスタマイズの手順、集計結果の確認・保存方法などを解説。出席者らが実際にツールを操作するデモンストレーションも行われ、委員からはデータの保存やバックアップに関する質問、より詳細なシチュエーションを想定した改善点などの意見がきかれた。それらを踏まえて今後、同ツールのさらなる改良を施し、本格的な導入に向けた調整を加えていく。

2年2カ月ぶりにわずかながらも前年上回る—10月分の食肉加工品生産量

日本ハム・ソーセージ工業協同組合はこのほど、2025年10月分の食肉加工品生産量を発表した。それによると、全体の生産量は4万2351t(前年同月比0.1%増)と、久しぶりに前年を上回った。ハム類が7427t(1.9%増)、ソーセージ類が2万6180t(0.6%増)、プレス類が1751t(10.4%増)と3製品群が増加し、ベーコン類が7003t(5.6%減)と唯一減少した。

ハム類はメインのロースハムが5116t(2.0%増)と増加。このほかボンレスハムが508t(6.7%増)、その他ハムが883t(2.1%増)と増加した銘柄が多かったが、ラックスハムは783t(1.6%減)と減少した。ソーセージ類はそのほとんどを占めるウインナーが2万264t(1.4%増)と増加したのが大きく、リオナソーセージ460t(4.2%増)、ボロニアソーセージ1268t(3.9%増)、ドライソーセージ580t(0.4%増)など

も増加。フランクフルトは2306t(7.4%減)、無塩漬ソーセージは822t(2.3%減)と減少したが、製品群としては増加をキープした。プレス類は引き続き、プレスハム減、チョップドハム増の傾向で、プレスハムは371t(17.9%減)、チョップドハムは1380t(21.6%増)だった。

ベーコン類は主体であるバラベーコンが6350t(6.4%減)、またその他ベーコンが183t(9.1%減)と比較的大きく減少したのが響き、ショルダーベーコンが469t(7.2%増)と健闘したのも及ばず、全体の生産量は減少した。

ソーセージ類の内数であるオールポークソーセージは1万6025t(5.3%増)と堅調に推移。製品値上げが繰り返される中でも、フラッグシップブランドへの信頼はあついものがある。

[2025年10月の加工品生産量]

(単位：t,%)

銘柄	生産数量	前年同月比	2025年累計	前年同期比
ロースハム	5,116.1	102.0	52,681.1	92.8
ボンレスハム	508.4	106.7	4,696.3	101.2
ラックスハム	782.7	98.4	7,327.1	97.7
その他ハム	882.5	102.1	8,478.6	93.8
ハム類計	7,426.5	101.9	74,350.2	93.8
チョップドハム	1,380.1	121.6	14,073.2	138.4
プレス類計	1,750.9	110.4	16,988.7	101.6
ベーコン	6,350.2	93.6	61,959.7	90.9
ショルダーベーコン	468.9	107.2	3,960.6	100.9
ベーコン類計	7,003.2	94.4	67,748.4	91.8
ウインナーソーセージ	20,263.7	101.4	185,000.4	99.6
フランクフルトソーセージ	2,305.9	92.6	25,354.1	93.8
リオナソーセージ	459.9	104.2	4,068.1	97.5
ボロニアソーセージ	1,267.7	103.9	11,058.3	93.5
無塩漬ソーセージ	822.3	97.7	7,778.6	95.1
その他ソーセージ	450.7	110.5	3,869.9	90.9
ソーセージ類計	26,180.1	100.6	242,644.7	98.2
ポークソーセージ	16,024.6	105.3	143,959.4	102.3
総合計	42,360.7	100.1	401,732.0	96.4
ハンバーグ類	1,982.7	101.7	17,532.6	92.9
やき豚	2,082.9	122.0	17,237.5	104.7
その他	4,409.7	103.9	38,182.5	97.0

アルゼンチン北部の生鮮牛肉輸入に関わるリスク評価を議論—牛豚疾病小委

農水省は11月27日、第110回牛豚疾病小委員会を開催し、①アルゼンチン北部地域(口蹄疫ワクチン接種地域)からの生鮮牛肉の輸入に関わるリスク評価について議論した。議案については、今回指摘のあった内容について改めて情報収集、検討などを行った上で、継続審議を行っていくとした。

冒頭、大臣官房兼消費安全局兼輸出国際局の木下雅由審議官が「本年10月、台湾においてアフリカ豚熱の発生が報告された。本事案を受け、わが国の動物検疫所においても、台湾からの全ての到着便に対し家畜防疫官を配備し、水際対策をより一層強化しているところである。余談を許さない現状の中で、委員の皆さまには専門的な見地から忌憚のない意見を頂戴したい」とあいさつ。

アルゼンチン北部地域からの生鮮牛肉の輸入に関わるリスク評価については、アルゼンチン当局から、国際獣疫事務局(World Organisation for Animal Health、以下「WOAH」)によって「口蹄疫ワクチン接種清浄地域」として認定された北部地域からの脱骨した生鮮牛肉の輸入解禁の公式要請があり、リスク評価を実施したもの。なお、アルゼンチン南部地域(口蹄疫ワクチン接種地域)産の牛肉および羊肉は、18年にリスク評価を行い、当該地域を家畜伝染病予防法施行規則(昭和26年農林省令第35号)第43条の表中欄に定める関連物品に対する禁止地域から除外した上で、輸入解禁している。同会では、リスク評価について以下の通り報告された。

動物検疫やサーベイランスなどの体制が維持されていることを前提に、アルゼンチン北部地域を口蹄疫ワクチン接種清浄地域として認めることは適切と考えた。一方で、アルゼンチン北部地域は、周辺国で口蹄疫が発生した場合に、口蹄疫が侵入するリスクが無視できないこと、口蹄疫ワクチン接種動物群では臨床症状に基づくパッシブサーベイランスが有効に機能しない場合があること、そのため確定診断まで時間を要する可能性があることなどが考えられた。また、その他、以下の点に留意が必要と考えた。

①アルゼンチン南部地域で口蹄疫が発生した場合を想定した南北地域間の家畜および畜産物の検疫措置が十分考慮されていないこと②牛舌について、熟

成処理済みの製品を他国に輸出した実績がないこと—以上のことから、留意点に応じた以下の適切なリスク管理措置を課すことで、アルゼンチン北部地域(口蹄疫ワクチン接種地域)からの生鮮牛肉(牛<Bos taurus>)およびコブ牛(Bos indicus)に由来する、冷凍または冷蔵の牛肉(牛舌およびハラミを含む。それ以外の内臓を含まない)で脱骨されたものの輸入により口蹄疫がわが国に侵入するリスクは極めて低くなると考えた。

①口蹄疫ワクチン接種地域であるアルゼンチン北部地域の口蹄疫ステータスは、WOAHによって口蹄疫ワクチン非接種清浄国として認定されているわが国と同等とはいえない。このため、輸入を認める際には、法令上、アルゼンチン北部地域を家畜伝染病予防法施行規則第43条の表中欄に定める関連物品に対する禁止地域として維持した上で、家畜伝染病予防法第36条第1項に基づく「輸入禁止地域を経由したもので農林水産大臣の指定するもの」として次の条件を満たした畜産物のみ輸入可能であると規定すること(わが国に向けて輸出される生鮮牛肉は、サーベイランス等の結果、疾病の発生やその疑いがある農場として、国家農畜産衛生管理機構<Servicio Nacional de Sanidad y Calidad Agroalimentaria>の監視下に置かれていない農場でのみ飼養された牛に由来することかつ、脱骨に加えて、熟成処理<生鮮牛肉を摂氏2度以上に保った室に24時間以上保管し、pH6.0未満となったもの>を行うこと)②アルゼンチン南部地域において口蹄疫の発生が認められた場合は、北部地域からの輸入も停止し、口蹄疫が拡大する恐れがないことを確認するまでの間は停止措置を継続すること③アルゼンチンからの牛舌の輸入を認める場合には、同国における牛舌の処理体制が整った段階で、わが国向けの輸出製品として適切な生産、品質管理体制が整備されているかを日本側があらかじめ確認をすること—としている。

専門委員からは「国外からの水際対策の強化において摘発件数の増加はみて取れるが、強化による増加なのか、インバウンド入国者の増加によるものなのかを明確にしてほしい」などの指摘が上がった点については、確認を行った上で追記するとした。

【食肉流通統計・10月】と畜頭数は豚が1・5%増、成牛は3・1%減

農水省統計部が発表した10月の食肉流通統計によると、全国の豚と畜頭数は147万7873頭(前年同月比1・5%増)と前年を上回った。枝肉生産量は11万6161t(2・3%増)となった。豚卸売価格(省令)は

区分		と畜頭数(頭)		枝肉生産量(t)	
豚		1,477,873	101.5	116,161	102.3
成牛計		96,441	96.9	43,915	98.6
和牛	和牛計	48,652	100.1	23,254	102.4
	雌	23,849	99.0	10,317	102.4
	去勢	24,775	101.0	12,928	102.4
	雄	28	93.3	9	101.1
乳牛	*乳牛計	25,158	88.1	8,902	86.4
	雌	16,321	92.6	5,006	93.5
	去勢	8,827	80.9	3,894	78.8
	雄	10	250.0	3	173.3
交雑牛	交雑牛計	22,556	101.4	11,728	102.1
	雌	10,347	98.9	5,018	99.4
	去勢	12,196	103.5	6,705	104.2
	雄	13	325.0	4.3	268.8
その他の牛計		75	79.8	31	68.4
その他の牛雌		42	85.7	15	65.1
その他の牛去勢		25	86.2	12	81.5
その他の牛雄		8	50.0	4	50.7
子牛		440	65.1	39	61.1
馬		937	105.8	395	101.2

*22年1月分調査より「乳牛」は乳用種の牛、「交雑牛」は乳牛と和牛、乳牛と外国種の交雑種として分離した。

586円(4・9%安)で、東京は558円(10・0%安)、大阪は614円(5・3%高)だった。

一方、成牛と畜頭数は9万6441頭(3・1%減)と減少し、このうち和牛は計4万8652頭(0・1%増)、乳牛は計2万5158頭(11・9%減)、交雑牛は計2万2556頭(1・4%増)となった。また、成牛の枝肉生産量は4万3915t(1・4%減)となった。

枝肉の卸売価格

単位:1キロ当たり円、%

区分	東京市場		大阪市場		
	価格	前年同月比	価格	前年同月比	
和牛去勢	A5	2,502	101.3	2,462	100.5
	A4	2,230	106.6	2,067	100.4
	A3	2,096	107.9	1,889	102.3
	A2	1,851	111.9	-	-
交雑種去勢	B3	1,585	101.5	1,572	-
	B2	1,461	102.3	1,453	107.9
乳牛去勢	B3	-	-	-	-
	B2	1,207	116.5	1,246	-

豚の枝肉取引頭数及び卸売価格(極上・上規格)

区分	頭数	前年同月比	価格	前年同月比
主要卸市場計	91,192	98.9	586	95.1
うち東京	7,542	100.9	558	90.0
大阪	467	57.7	614	105.3

【鶏肉輸入通関 10月】計5万7322tで8・0%減

10月の鶏肉輸入通関実績は、計5万7322t(前年同月比8・0%減)と減少し、前月からも451t減少した。

モモ正肉などをメインにした「その他」は5万4953t(8・2%減)。丸鶏も1193t(12・2%減)と減少。骨付きモモは1176t(7・6%増)と増加した。

国別にみると、ブラジルが4万1094t(5・2%減)、タイが1万5651t(12・1%減)、米国が535t(41・9%減)、その他の国が41t(83・8%減)となった。

2025年10月の鶏肉輸入量

単位:トン、%

		米 国	タ イ	ブラジル	その他国計	小 計
チルド	計	-	-	-	-	-
	累計	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
フローズン	丸 鶏	1	42	-	0	44
		(-)	(466.7)	(-)	(-)	(440.0)
		-	-	1,181	12	1,193
	骨付きモモ	(-)	(-)	(91.5)	(17.9)	(87.8)
		-	-	12,198	163	12,360
		(-)	(-)	(86.6)	(68.2)	(86.1)
	そ の 他	535	385	253	4	1,176
		(58.1)	(-)	(-)	(2.3)	(107.6)
		5,748	2,353	1,463	61	9,625
	小 計	(78.3)	(552.3)	(244.6)	(27.6)	(112.0)
-		15,266	39,660	26	54,953	
(-)		(85.8)	(94.3)	(173.3)	(91.8)	
累 計	76	146,421	334,381	147	481,025	
	(28.4)	(99.3)	(91.3)	(47.0)	(93.5)	
	535	15,651	41,094	41	57,322	
合 計	(58.1)	(87.9)	(94.8)	(16.2)	(92.0)	
	5,824	148,774	348,041	371	503,010	
1~10月累計	(76.4)	(100.6)	(91.4)	(47.9)	(93.6)	
	535	15,651	41,094	41	57,322	
1~10月累計	(58.1)	(87.9)	(94.8)	(16.2)	(92.0)	
	5,825	148,816	348,041	371	503,054	
1~10月累計	(76.4)	(100.6)	(91.4)	(47.9)	(93.6)	

注:四捨五入、上段は当月、下段は累計、()内は前年同月比

京都府食肉業務用卸協同組合が総会、事業計画案など可決

京都府食肉業務用卸協同組合(吉岡浩人理事長)は11月26日、京都市中京区のホテルオークラ京都で第46期通常総会を開催。議事では第46期事業報告ならびに決算報告書承認、第47期賦課金の額および徴収方法、同事業計画ならびに収支予算案承認、借入金の最高限度額、その他について審議し、いずれも原案通り承認した。

総会終了後に開かれた懇親会で冒頭、あいさつに立った吉岡理事長は「われわれの業界を取り巻く環境は引き続き厳しい。当組合では毎月の情報交換会をはじめ諸事業を推進しているが、安全・安心な食肉を安定供給することが大きな役割。また、人材育成をはじめ、生産性向上のための取り組みや新商品開発、情報共有も大切な事業だと認識している。今後も生産基盤を強化するための事業を継続することで皆さんの経営に役立てていただきたい」と述べた。

来賓では、農水省近畿農政局の犬塚明伸次長、京



都府商工労働観光部中小企業総合支援課の田村弘之課長、京都市産業観光局地域企業推進室商業振興課の野原永臣課長がそれぞれの立場から祝辞。来賓紹介、祝電披露に続き、一般(社)全日本司厨士協会京都府本部の津田昭彦会長による乾杯発声で懇親に。年末に向けた情報交換などが行われる中、立原信一副理事長による中締めで散会した。

佐藤俊昭氏の通夜・告別式に多数の関係者が参列、故人をしのぶ

11月24日に逝去した佐藤俊昭氏(宮城県食肉生活衛生同業組合理事長、宮城県食肉事業協同組合副理事長、宮城県食肉公正取引協議会副会長、享年68)の通夜が27日、告別式が28日にそれぞれ仙台市青葉区の「花さいだん 台原」でしめやかに執り行われ、両日共に多数の関係者が参列し、故人をしのんだ。

葬儀委員長を務めた、宮城県食肉生衛組合の高平巖副理事長はあいさつで「佐藤さんとは40年来の付き合いであり、友人であり、そして良きライバルの仲だった。また、業界においては食肉三水会でも活躍され、組合の要職も務めてこられた。生衛組合の理事長



在任中にこのようなことになり、本当に悲しく、残念でならない。佐藤さん、長い間本当にありがとう。お疲れさまでした」と故人に呼びかけた。

[訂正]本紙11月28日付、通関資料①～⑧(P10～17)の見出しが誤っておりました。正しくは「2025年

10月分の食肉輸入通関実績」です。おわびして訂正します。

【JCA・10月】豚肉、鶏肉動き良いが牛肉、加工品鈍く1・3%増

日本チェーンストア協会がこのほどまとめた販売統計速報によると、10月の食料品合計販売金額は7341億3970万円(既存店ベースの前年同月比1・5%増)だった。畜産品の売り上げは869億305万円(1・3%増)だった。豚肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵の動きは良かった

が、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。総菜は915億3437万円(1・3%増)で、温総菜は、揚げ物、天ぷら、オードブル、焼き魚、中華、ピザなどはまずまずの動きだった。要冷総菜は、和・洋総菜ともまずまずの動きだった。米飯の動きは良かったが、すしの動きは鈍かった。

【東京食肉卸売市場】年末手当てで牛は堅調、豚は強含み

[牛]前週は月末だが、和牛、交雑牛共におおむねもちあいで推移した。和牛雌は上物中心に引き合いが強いが、去勢は4等級の引き合いが強く2500円台で推移しており、5等級を押し上げている。交雑牛は4等級は安値が1700円台と高騰しており、2～3等級は一時落ち着いたが、再び上げ相場に。

12月に入り、コロナ前に比べ減ったとはいえ忘年会需要も増えており、量販店の売り場では小間、切り落としを中心に鍋物提案がなされている。和牛、交雑牛共にロース、ヒレは逼迫^{ひっばく}しており、カタ系の発注も増えているよう。中国情勢でインバウンド向けの需要に不安を感じる声もきかれた。

年末の最需要期を迎えて産地からの出荷は多い。全体に引き合いは強くなり、和牛去勢A5は2600～2700円、A4は2400～2500円、A3は2300～2400円、交雑牛去勢B4は1700～1800円、B3は1600円前後か。

[豚]いよいよ師走に入り、さらに強まっていく鍋物需要に加え、年末に向けた荷動きも徐々に増えてくる時期となってきた。

前週は連休明けで稼働日が少なかったこともあり、1日当たりの出荷頭数は引き続き高水準で推移。全国と畜頭数は7万頭を大きく上回る日が続いた。そのため、相場はやや軟調な展開となり、上物価格は600円を割り込む展開となった。

一方、農水省の肉豚生産出荷予測(11月25日発表)によると、12月は147万5千頭で前年同月比では1%増としているが、平年比では1%減の予測。10～12月では427万4千頭と前年同期比で1%減、平年比では3%減としており、例年に比べて決して多いわけではない。

需要のピークはもう少し先ではあるが、今週は強含みか。

【大阪市食肉卸売市場】和牛3～5等級強気に、豚12月中は高値を維持

[牛]いよいよ12月。和牛相場は急騰しており、3～5等級いずれも引き合いが強いが、特に3～4等級は、頭数が少なく希少であることもあって、5等級に迫る価格となっている。

現状、12月前半はまだ仕入れが活発に行われると予測されることから、強い引き合いを維持し、枝肉相場も高値を継続する見通し。今週の和牛3～5等級の相場は、等級にかかわらず、いずれも強い引き合いになるとみる。

交雑牛についても、強い引き合いを維持しており、これも少なくとも今週いっぱいには継続するとみてよさそうだ。

[豚]国産牛と同様に、国産豚肉も引き合いが強い。豚枝肉相場も高値を保っている。豚肉需要の強さからみて、年末に限らず年始向けの引き合いも強いと考えられることから、少なくとも12月中はこの高値相場を維持しそうだ。

【資料】食肉加工品生産数量調査報告書 (2025年10月分)

(単位：t,%)

	銘柄	生産数量	前年同月比	2025年累計	前年同期比
ハム類	ロースハム	5,116.1	102.0	52,681.1	92.8
	ボンレスハム	508.4	106.7	4,696.3	101.2
	骨付きハム	8.3	112.2	58.4	86.0
	ラックスハム	782.7	98.4	7,327.1	97.7
	ベリーハム	2.0	69.0	24.0	96.4
	ショルダーハム	126.5	100.9	1,084.7	91.6
	その他ハム	882.5	102.1	8,478.6	93.8
	小 計	7,426.5	101.9	74,350.2	93.8
ベーコン類	ベーコン	6,350.2	93.6	61,959.7	90.9
	ロースベーコン	0.8	200.0	9.4	138.2
	ショルダーベーコン	468.9	107.2	3,960.6	100.9
	その他ベーコン	183.3	90.9	1,818.7	103.8
	小 計	7,003.2	94.4	67,748.4	91.8
ソーセージ類	ウイナーソーセージ	20,263.7	101.4	185,000.4	99.6
	フランクフルトソーセージ	2,305.9	92.6	25,354.1	93.8
	リオナソーセージ	459.9	104.2	4,068.1	97.5
	ポロニアソーセージ	1,267.7	103.9	11,058.3	93.5
	ドライソーセージ	579.6	100.4	5,196.6	94.9
	セミドライソーセージ	23.9	43.5	249.9	100.7
	レバーソーセージ	2.2	57.9	29.9	90.9
	レバーペースト	1.0	90.9	9.3	85.3
	加圧加熱ソーセージ	1.1	61.1	16.1	36.1
	無塩漬ソーセージ	822.3	97.7	7,778.6	95.1
	混合ソーセージ	1.0	250.0	6.1	129.8
	加圧加熱混合ソーセージ	1.1	275.0	7.4	145.1
	その他ソーセージ	450.7	110.5	3,869.9	90.9
	小 計	26,180.1	100.6	242,644.7	98.2
プレスハム類	プレスハム	370.8	82.1	2,915.5	44.5
	混合プレスハム	0.0	0.0	0.0	0.0
	チョップドハム	1,380.1	121.6	14,073.2	138.4
	小 計	1,750.9	110.4	16,988.7	101.6
合 計		42,360.7	100.1	401,732.0	96.4
ポークソーセージ		16,024.6	105.3	143,959.4	102.3
サラミソーセージ		96.1	108.3	811.5	98.2
ハンバーグ類		1,982.7	101.7	17,532.6	92.9
焼き豚		2,082.9	122.0	17,237.5	104.7
その他		4,409.7	103.9	38,182.5	97.0

- 注) 1. 生産数量は食肉加工工場より報告された数量である。
 2. ポークソーセージはウイナー、フランク、ポロニアの内数である。
 3. サラミソーセージはドライ、セミドライの内数である。

資料：日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」
 (公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月28日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	3,350	2,728	2,426	-	-
		安値	2,543	2,474	2,267	-	-
		平均	2,782	2,559	2,348	-	-
		124頭 頭数	102	20	2	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		-頭 頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,500	2,875	2,476	-	-
		安値	2,388	2,317	2,149	-	-
		平均	2,734	2,510	2,400	-	-
		187頭 頭数	146	33	8	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	-頭 頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭 平均	-	-	-	-	-	
	雌 C -頭 平均	-	-	-	-	-	
	去 B -頭 平均	-	-	-	-	-	
	去 C -頭 平均	-	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 11頭 平均	-	1,754	1,645	1,486	-	
	雌 C -頭 平均	-	-	-	-	-	
	去 B 27頭 平均	-	1,779	1,632	1,472	-	
	去 C 1頭 平均	-	-	1,668	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚	その他
と畜	430	1,056	-	(競り) (相対)	
売買	431	1,163	387.0	- 31	65

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,689	2,178	1,753	1,461	-
	B	-	-	1,612	1,467	1,303
和 去	A	2,709	2,514	2,399	2,123	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	-	1,043
	C	-	-	-	-	968
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	1,180	1,027
交 雌	B	-	1,648	1,599	1,371	928
	C	-	1,745	1,397	1,250	-
交 去	B	1,934	1,756	1,620	1,507	-
	C	-	-	1,560	1,459	1,085

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	768	761	755	648	545
	安値	598	551	518	475	378
	平均	656	590	557	530	499
	頭数	(9)	(379)	(469)	(219)	(87)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
搬入相対	高値	-	-	-	-	549
	安値	-	-	-	-	270
	平均	-	671	649	-	523
	頭数	(-)	(4)	(2)	(-)	(25)

[大阪食肉卸売市場] 11月28日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,970	2,410	-	-	-
(頭数)	(9)	(9)	(2)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(1)	(2)	(1)
和 去 A	2,874	2,413	2,228	-	-
(頭数)	(37)	(12)	(4)	(-)	(-)
B	-	2,323	-	-	-
(頭数)	(1)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,996	1,841	1,729	1,622	-
C	-	1,838	1,750	-	-
交雑去 B	-	1,816	1,763	1,502	-
C	-	1,818	1,724	-	-
豚	633	609	574	-	485

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	11月28日	11月27日	(11月累計)
豚	70,300	72,300	1,273,700
成牛計	5,400	4,630	90,080
和牛雌	1,310	1,200	24,000
和牛去勢	1,320	1,250	25,290
乳牛雌	910	1,020	13,500
乳牛去勢	340	410	7,640
交雑雌	880	380	9,140
交雑去	640	370	10,310

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月28日

東京	1,565円	(前日 1,597円)
大阪	1,707円	(前日 1,730円)

[豚・全農建値] 11月28日

上	中	取引頭数	市況
578円	554円	1,193頭	強もちあい

と畜	牛 105頭	豚 151頭	牛概況	もちあい
売買	牛 125頭	豚 95頭	豚概況	続落

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月28日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (594)	- (-)	6,255	-	もちあい
仙台 [中]	549 (571)	487 (462)	566	165	反落
栃木 [地]	586 (596)	540 (553)	1,796	114	下落
茨城 [地]	580 (595)	553 (558)	1,459	755	反落
群馬 [地]	583 (583)	461 (470)	2,292	426	もちあい
さいたま [中]	567 (561)	554 (550)	266	263	小反発
東京 [中]	590 (585)	557 (555)	1,056	1,163	小戻し
横浜 [中]	579 (583)	552 (556)	686	684	もちあい
山梨 [地]	- (616)	- (569)	120	12	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	-
名古屋 [中]	599 (590)	593 (581)	967	286	続伸
京都 [中]	567 (613)	578 (578)	132	73	もちあい
大阪 [中]	609 (616)	574 (593)	151	95	続落
神戸 [中]	575 (586)	569 (585)	-	54	-
岡山 [地]	623 (629)	617 (622)	348	321	-
広島 [中]	594 (-)	563 (-)	348	50	もちあい
福岡 [中]	585 (583)	553 (549)	575	162	強もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月21日～11月27日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,728,278 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,123	1,184	1,254	1,176	87,766
うで	728	756	849	779	155,554
ロース	1,044	1,136	1,209	1,136	151,346
ばら	1,210	1,246	1,340	1,261	159,564
もも	770	794	829	795	169,888
ヒレ	1,003	1,190	1,312	1,170	11,629
セット	940	1,040	1,083	1,021	992,531

◇近畿圏 総重量 798,183 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,285	1,374	1,298	63,561
うで	699	739	810	748	126,920
ロース	1,080	1,221	1,269	1,202	109,297
ばら	1,269	1,319	1,393	1,318	138,487
もも	705	729	826	738	165,741
ヒレ	1,135	1,266	1,312	1,234	11,838
セット	894	1,004	1,098	1,001	182,339

[食鳥正肉日経相場] 11月27日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	637	745	937	259
ムネ	485	547	711	210

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	666	739	1,030	5
ムネ	470	515	605	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月27日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	960	764	550	600	650
安値	600	435	290	360	350
平均	750	543	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

- 大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48 TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510
- 東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928
*東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。
- 九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12 TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995